

第 19 回すばる小委員会議事録

日時：1月13日（水）午前11時10分より午後3時15分（JST）

場所：国立天文台 解析研究棟 2F TV 会議室

出席者：青木和光、有本信雄、市川隆、伊藤洋一、太田耕司、川端弘治、菅井肇、
田村元秀、浜名崇、本原顕太郎、山下卓也、吉田道利（以上三鷹）
臼田知史、高遠徳尚（HSC フィルターの項のみ）（以上ハワイ観測所から
TV 会議接続）

欠席者：松原英雄、林正彦

書記：吉田千枝

1 HSC フィルター選考委員の選出について（高遠委員）

HSC のフィルター製作決定プロセスについては以前 SAC に示した通りだが、現在製作希望者が複数いるので、検討会を開催する。その際の選考委員を SAC から 1 名選出してほしい。HSC のフィルターについての方針はブロードバンドは観測所が用意し、ミドルバンドとナローバンドは持込装置で製作する。持ち込んだ時点で観測所のフィルターとなり共同利用に供されるので、あまり特殊なものでなく、利用範囲の広いものにしたい。また大変高価なものなので、機能が重複しないように調整すること、最初にどれから作るのか優先順位をつけることが検討会の目的だ。4 月下旬～5 月に科研費の内示がされた時点で検討会を開催する。

検討の結果有本委員長が選考委員を務めることとなった。

2 来年度の予算配分について（臼田副所長）

来年度のすばるの予算は未定で、2 月にならないとわからない。先日の幹事会議で報告されたのは、文科省から NAOJ に配分された運営費交付金と特別研究経費の額であり、ハワイ観測所の運営費の配分額は未定だ。一月初旬に NAOJ 内のヒヤリングがあったが、2 月にならないとすばるの予算はわからない。

委員長：昨年度比大幅減の事態は避けられたと理解する。（所長が欠席なので、代わりにそのほかの近況を聞きたい。

副所長：UK の STFC が大幅な予算カットで UKIRT を閉じる。JCMT も 2012 年までに運用を停止する提言がなされた。UH88/UKIRT 日本時間の NAOJ 内の予算は

平成 22 年度まで確保されているが、UKIRT の状況により配分時間がなくなる可能性がある。

C : デコミッションの費用もその提供者を探している状態らしい。

C : どこかが買い取って有効利用できるるとよいが。

副所長 : Gemini からの UK 撤退について、Gemini でも対策ができていない。UM でも現状について報告がある。

3 SEEDS 中間審査スケジュールについて

中間審査の規定について、第 1 回戦略枠公募要項、および 2008 年 3 月付けの SAC による審査報告書を見直して検討した。2010 年 11 月頃の SAC で開始後 1 年目の報告を、2011 年の夏に中間見直しを行う。

4 前回の議事録の確認

ALMA との WS については本原、田村、有本の 3 委員がすばる側世話人となって ALMA 側と協力しながら準備を始めることとする。WS 開催は 5 月頃を目途としたい。

5 UM での SAC 提言について

委員長の UM 発表ファイルを回覧し、意見交換した。

・ 院生枠について

院生枠の詳細をもう少し詰める必要があるという意見が委員から示されたが、今回の UM ではまず院生枠創設についてユーザーの意見を問い、詳細は後日の SAC で検討することとした。

・ 戦略枠時間の上限 25% について

委員長から、今回の UM では望遠鏡時間が非常にタイトになる時期があるという情報をユーザーに提示することが目的で、25% の議論は次の段階に行うという説明があった。続いて望遠鏡時間のシミュレーション表を見ながら議論を行った。

C : TMT ができる前なら戦略枠が少し遅れてもいいのではないか？

C : 遅れるのは国際競争力の観点からよくない。

C : 戦略枠の問題とダウンタイムの問題が混線しているようだ。

C : (長期のダウンタイムが予想される)S11B 期は共同利用をやめたほうがいいのでは

ないか？

委員長：ダウンタイムの予定を知りたい。

副所長：まだ来年度の予算も決まっていないので、わからない。

C：ダウンタイムを分散させて、後ろにずらすことはできないのか？

副所長：HSC チームから、2011 年 9 月にファーストライトを迎えたいという要望を聞いている。その場合、S11B のダウンタイムは減るが S11A は増える。

また、ダウンタイムを分散させるとトータルの期間が増えることになるが、秋の天体を観測したいというユーザーの希望があれば分割することも可能だ。

C：現状では不確定要素が多いので、何通りかのやり方を考えてみるしかない。

C：ダウンタイムの問題と複数の戦略枠が同時に走る問題を分けるべきだ。ダウンタイムが終わっても戦略枠時間が共同利用時間の 25% を超えることが問題になっている。

C：25% のプラスマイナス 5% ぐらいはいいという考え方もある。

C：5% というのはセメスタあたり 20 夜程度の違いだ。

C：戦略枠の分野が望遠鏡時間が減る分をかぶるべきという議論もあったが。

C：その分野の他の提案を全部切るのは危険だ。

C：(ダウンタイムの期間)すばるの旅費を他の望遠鏡に観測に行く人に出すのはどうか？

C：共同利用ということではなく、国立天文台の大学支援として出せるのではないか？

C：S11B に関しては共同利用ゼロでいいのか、あるいは少しでも公開してほしいか、UM でユーザーに聞いてみるしかない。

C：サービスプログラムを主体にやる方法も考えられる。

委員長：ユーザーは装置チームがどういうサイエンスをやるか知らない。1 年後の UM でどういうサイエンスをやるかを提案者が説明して、それで決まると思う。SAC としての考えは 25% を堅持するかどうか？

C：これまでの議論では堅持する方向だろう。

C：UM 等の議論になると皆現行のシステムを変えようとはしないものだ。SAC の役目は将来を見据えて発言することだろう。

C：シミュレーション表の最後で戦略枠が 25% に戻っているのがよくない。50% とかになっていくはずではなかったのか？サーベイが増えると思っていたのではなかったか？

C：この表は SAC の意見ではなく、今出ているプランを列挙しただけだ。

C：今後製作される可能性のある装置やその戦略枠も入れておいたほうがよい。

C：TMT が走ったときのすばるのあり方があるだろう。その前に個別のサイエンスをやってそれを TMT に持っていけるというのも大事だ。

委員長：考え方は二つある。戦略枠のデータを持って TMT に行くというなら 50%でもいい。でも別のアイデアがある人もいるから、両方が満足するところを探る必要がある。

C：今の段階で話は進まないと思う。サイエンスの世界で 10 年先はわからない。

C：枠を作って固定してしまっただけではいけないと思う。

C：その意味で戦略枠は 25%だった。

C：結局両方の意見が出たようだ。このシミュレーション表は大事だが、見方が難しい。

6 次年度への引継ぎについて（委員長）

次年度への引継事項を文書で残したい。議論の結果、2009 年 3 月の光赤外専門委員会への提言書とこれまでの議事録を元に、遣り残したことを A4 1 枚程度にまとめることとした。委員長が素案を準備し、次回の SAC で検討する。項目としては、次期大型装置の検討、ALMA, SPICA との連携、院生教育と装置持ち込み、アジアとの協力等。

副所長補足：前回の SAC で高遠委員から報告があったように、2 月に予定している赤外/PI 装置の WS は大学支援が主な目的であり、それとは別に主幹となる観測装置の WS は別途 4 月以降に開催したい。

7 次回委員会の日程調整

2/22 午後 1 時からの開催に変更し、終了後三鷹の院生と SAC 委員とで懇談する。